

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年11月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670800178号
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホームひまわり
所在地	出水市汐見町89 (電話) 67-3161
自己評価作成日	平成23年11月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節によって5月灰汁巻き作り(一連の作業の指導)7月は七夕(飾り作り、飾り付け)12月は餅つき等、ホームで行っています。その他、特養での催し物(ひな祭り、夏祭り、敬老会)等にも参加している。また、家族にも参加して頂けるよう案内している。

鶴の越冬地で有名な出水市の郊外に立地し、冬はホームに向かう途中の田んぼで餌をついばむ鶴の姿を見ることが出来る。法人は医療機関、介護老人福祉施設、デイサービス、居宅介護支援事業所などを運営して地域の医療、福祉の一端を担っている。グループホームと同敷地内に隣接する福祉施設で行われる行事は、利用者と地域の方々との交流の機会にもなっている。また、災害時の協力体制も話し合われており、ホームの避難訓練には施設の職員も参加している。緊急時の対応と利用者の健康管理は協力医療機関と連携が図られており、定期的な訪問診療は家族の安心に繋がっている。法人内研修や資格取得の支援も行われており、職員が働きながらレベルアップに向けて勉強する機会が得られる環境が整っている。離職が少なく利用者との馴染みの関係が築かれて穏やかに過ごせるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員が自由な発想の中で、作成した事業所独自のものである。理念は「さりげない見守り」「家庭的な雰囲気づくり」「その人らしさを大切にケアします」としている。	家庭的な環境の中でその人らしく生活することを支えるホーム独自の理念を作成している。職員は理念を日々の業務の基準として認識し、毎朝の唱和とケア会議で理念を確認して共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での買い物や、法人での夏祭りなどに地域の方々にも参加してもらっている。また、地域活動のひとつとして実施される、クリーン作戦には積極的に参加し、地域の方々との交流に努めている。	小学校の運動会見学に出かけたり、地域の生き生きサロンへも訪問している。また、母体法人で行われる行事などで地域の方々と交流する機会もある。出水市全体で毎年行われているクリーン作戦には、職員が参加して地域の一員として清掃活動に努めている。高校生の実習の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症などに関していつでも相談に応えられる認知症サポート相談窓口として地域にPRしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関催、ホーム内の近況報告に始まり地域全体、行政、利用者、家族、事業所が集う場と捉え、話題は限定せずに意見を考案している。	民生委員、地域住民代表、家族、利用者、市職員の参加を得て2ヵ月に1回開催されている。ホームの状況報告や行事報告、研修報告やヒヤリハット報告などが行われている。	

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進委員会への参加、事故などの報告・相談・研修案内など協力を仰いでいる。</p>	<p>母体法人の一つとして、市の担当者・包括支援センターの職員と連携を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、日頃から身体拘束によって引き起こされる利用者の心身機能の低下などを職員一同が理解できるよう勉強会を通じて周知している。</p>	<p>定期的な法人の勉強会とケア会議で拘束について理解し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠などせずに安全で自由な暮らしを支援している。外出する利用者にも職員がさりげなく着いて行き見守っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>特養の生活相談員が研修を受講して、施設内研修を行い、参加している。日常的にその防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>「成年後見制度について」施設内研修会を行っている。グループホームの職員も一緒に参加している。</p>		

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書の該当箇所を示しながら口頭で説明し、家族の不安解消に努めている。また、退去時も十分な説明を行い、納得してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が利用者、家族と面談している、	面会時や電話連絡時に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、運営推進会議にも出来るだけ家族に参加してもらい、意見・要望などを運営に反映させるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体での運営会議や職員会議を行い、意見や提案を聞く機会としている。	毎月の職員会議とケア会議で意見交換を行っている。法人全体で資格取得に向けた支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇級、賞与など定期的に行っている。各人のスキルアップのために便宜を図っている。		

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務のローテーションの調整を図り全職員が研修を受ける機会を得られるように配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>出水・川薩支部認知症グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加し、お互いの研磨を重ねている。</p>		

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の訴えに対して、出来る限り聞き取るようにしている。時に個別で対話を行うことにより安心感を高めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、これまでの生活状態、心身状態を聞き取り、問題になっていることや要望を明確にした上で、ホームでどのように過ごしていきたいのかを伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今現在困っている事は何なのかを聞いて対応している。現在、満床のため即入居できないので、他サービス利用や他機関への紹介などを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に畑に苗を上、草取り・収穫と喜びを共有している。		

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院への同行、状態の変化など、事あるごとに連絡、相談を行い、ご協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時の説明で、入居後も知り合いなどの面会が出来るよう家族にお願いしている。	入居前からの美容室、メガネ店、クリーニング店、歯科医など入居後も継続して使っている利用者や、併設のデイサービスや施設での友人、知人との面会などなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中心となるリビングでは、一緒に洗濯物を畳んだり運動、カラオケ、テレビなどを通じて交流を深める場を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化に伴いグループホームから併設特養に入園された人がいる。職員と本人、家族のなじみの関係は今も続いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の希望を受け入れ把握に努めている。意思疎通困難な人の場合は過去の情報と入居後の経過、家族の意見や複数職員での話し合いによって推測するようにしている。	お茶の時間や居室でゆっくりと話を聞く機会を作り、思いなどを聞くようにしている。また、日常の会話や困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にキーパーソンとなる家族から生活歴を伺うこと以外に、ホームで暮らしている中で知り得た本人の暮らしの一端を記録に残し、職員全員で共有し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、行動や言葉、表情からその人の全体の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、計画作成者と会議を開催し本人や家族の意見を中心にホームでのケアの方向性を話し合っている。その後職員全体で会議を行い介護計画を立てている。	本人、家族から暮らし方や要望を聞き取り、ケアの方向性を話し合い、役割、残存能力を引き出し、生きがいにつながるようなサービスを取り入れて本人本位の介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果は個々に記録し、全職員が確認できるようにし、利用者に適した介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況を見ながら、家族の要望に応じられるように、各事業所との連絡を行う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校に運動会の応援に行く。近隣のいきいきサロンの方々の訪問がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医を確認。何かあれば家族と連絡を取り、かかりつけ医の受診に努めている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力病院の訪問診療もあり、家族の安心に繋がっている。	

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医の看護師などによく相談し、健康管理に努めている。また、併設施設の看護師の協力ももらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院に際しては、疾患の状態が長期の入院加療と要するもの以外は病院関係者と密に連携して早期退院に向けた話し合いを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>グループホームとしての支援可能な範囲を管理者や職員とともに協力医と機会を見て話し合っており、状態変化時の対応も医師の指示の下に行うことを家族にも説明を行い確認している。</p>	<p>重要事項説明書に「重度化した場合の対応について」を明記しており、入居時に説明している。また、重度化した場合は医師の指示のもとに家族とその都度話し合っており、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。職員も方針は共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変、事故のマニュアルを備えて発生時に備えている。定期的に急変時、事故発生時、火災発生を想定した訓練を行っている。</p>		

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時は地域や、隣接の特養からの協力体制が確立されている。</p>	<p>併設の法人の職員も参加して年2回避難訓練を行っている。スプリンクラーは設置済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声かけは、声のトーンを抑えたり配慮は日常的にしている。プライバシーの保護には常日頃から職員間で話し合い、個人記録に関しては事務所ロッカーに保管している。	声かけなど配慮しながら対応している。日常、気づいたことは注意し合い、ケア会議でも接遇やプライバシーについて話をすることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事が複雑である場合は必ず選択して頂くように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われる事が多い中で、利用者との共同作業を通じて共に歩むケアに取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節に合った衣服の調節に努めている。散髪は本人もしくは家族の要望によって行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、特養の栄養士が立てたメニューを調理している。また、ホームの菜園には季節に応じた野菜を栽培しており、利用者と一緒に収穫し食材としている。	献立は特養の栄養士に協力してもらい、菜園で採れたものを加えることもある。おやつのちまき作りや団子など利用者と一緒に楽しみながら行っている。	

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事のカロリー計算や摂取量のチェック・水分補給の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、働きかけを行い口腔ケアを行っている。出来る方は見守り、出来ない方は洗面所まで誘導し促しまたは、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間毎に誘導する人もいるが、その人の排泄のサインを見逃さずに誘導している。	職員の声かけ誘導でトイレでの排せつを支援している。自立している利用者もおり、継続できるように支援している。夜間のみポータブルトイレ使用の利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は出来るだけ食物繊維を取り入れ、水分補給に努めている。排泄チェックは毎日行っている。		

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に入浴を決めているが、希望があれば入浴できる体制をとっている。	基本は週3回午前中であるが、希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせて、自室での休息や臥床を促している。その際、不安を和らげ安心感を持っていただけるように様子を見に行くことや声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸、散歩、畑仕事、園芸などその方に応じた支援を行っている。誕生会では、踊りや歌を披露している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて、桜、菖蒲、薔薇、ぶどう狩り、鶴見学に出かける。家族と買い物、墓参りなど外出の機会をつくっている。	ホーム周辺の散歩や買い物に連れて行く利用者もいる。季節の花見や鶴見学などにも出かけている。新茶の季節には中庭でお茶を楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金の所持については本人、家族と相談の上、本人管理となっている人もいます。また時々買い物に出かけたりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙のやり取りは自由に行っている。また本人が出来ない場合は職員が手伝っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間には、季節の生花を飾り、壁にも季節に応じた飾りつけを行っている。</p>	<p>共用空間はダイニングとリビングが分かれており、食事とくつろぎの時間が区別できる。清潔感があり、不快感や混乱を招くような刺激がないように配慮され、居心地良く過ごせる空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有区間であるリビングには、ソファやゴザを敷きゆっくりくつろげる様にしている。</p>		

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族には、親しんだ物品を居室に持ち込んでいただけるよう入居時から働きかけている。</p>	<p>ベッド、家具、洗面台が備え付けになっており、使い慣れたタンスや日用品、洋服、飾り物、位牌などが持ち込まれている。希望に応じて畳敷きも可能である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、トイレ、浴室の手すりを設置している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームひまわり 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない